

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171000565), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホーム すぎの子の郷), 所在地 (当別町春日町97-1), 自己評価作成日 (平成27年11月), 評価結果市町村受理日 (平成27年12月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな当別町の中心に位置し、施設入口にはヤギが飼育されていて入居者さんはエサをあげに行くことを楽しみにされています。積極的に地域の活動にも働きかけ子供達を呼んで一緒に行事を楽しんだり、小学校へ年に数回ペットボトルキャップ、リングブル、ベルマーク等を寄贈しに行ったり、町内会の方に参加いただき一緒に避難訓練を行ったり、町内会行事に参加させて頂いたり、お隣の方から野菜を頂いたりしています。家族参加の行事も年に6~7回あり、家族同士の交流の場にもなっているのではないかと思います。施設に入居されていても出来る限り社会参加できる場を提供していきます。入居者、職員共に楽しく、笑顔で日々過ごして行きたいと思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171000565-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成 27年 12月 9日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かで閑静な住宅街に位置しており、交通や買い物などの利便性にも恵まれている。2階建て1ユニットの事業所で、ホームのある2階の広々とした窓からは太陽の光が差し込み、広い庭には花壇や菜園、桜の木などがあり、四季の移り変わりを身近に感じる事が出来る。利用者は、町内会の夏祭りや花壇の花植えなど諸行事に積極的に参加するとともに併設のデイサービスと共同で実施する「はつらつ祭り」には多くの地域の人たちが参加し相互交流を深めている。近隣の小学校との交流、折り紙やそば打ちボランティアの訪問、初詣や花見、紅葉狩りといった多彩な季節の外出行事が日々の生活を楽しく豊かなものとしている。家族の参加する行事も数多く設定され、利用者と絆を深めるとともに職員と一緒に支え合う関係を築いている。職員皆で決めた「ゆつくり、一緒に、楽しく、豊かに、家族と共に、地域と共に」と謳う理念が、サービス提供のそこかしこに感じられる事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user feedback.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰もが確認出来るようにフロア・詰所に掲示しています。また各自がいつでも確認できるようにネームカードに入れて常に携帯しています。	法人理念のほか職員の意見で事業所独自の理念を決め、見えるところに掲示するとともに常に携帯している。ケアサービスの提供に当たっては理念に沿い、せかせせずに一日一回は笑って過ごせるケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流に積極的に参加し町内の行事に参加したり、お隣から取れたての野菜を頂いたり、小学校へリングプル等を寄贈しに行ったりしています。	町内会に加入し、夏祭り、支え合い活動、町内清掃、花壇植えなどの諸行事に参加するとともに、デイサービスと共同で実施のはつらつ祭りには多くの地域の人々が参加し交流を深めている。町の福祉祭り、小学生との交流、地域への出前講座の開催など地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他事業所と合同での勉強会・研修会の開催を行っている。ふまねっとの出前講座も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、町福祉課、町内会、家族の参加で2ヶ月毎に開催し意見交換や報告を行っています。参加出来ない家族にはお手紙でお伝えしています。	多くの家族参加のもと定期的に開催され、家族からの意見は行事運営に反映されている。町内の他のグループホームにも参加を呼び掛け、これを契機に相互交流の深まりへと発展している。議事録は、委員、家族全員、町に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会に参加したり、地域ケア会議に出席したりしています。	町福祉課とは、認知症サポーター養成研修への出席、毎月の状況報告時に相談・指導を受け担当職員とは信頼と協力関係を築いている。地域包括センター主催の地域ケア会議に出席し、町・警察・消防などの行政、民生委員・福祉関係事業所と共に地域の福祉向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で職員周知を行い、身体拘束を行わないケアについて話し合ったりしています。	内部・外部研修に出席し、身体拘束・虐待・権利擁護について理解を深めている。身体拘束検討会議で身体拘束を行わないケアについて話し合うとともに、言葉による制止についても職員同士お互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議で職員周知を行い、虐待についての疑問などの話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に後見人制度を使われている方がいるので理解しやすい環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などに口頭及び文章で説明行っています。理解・納得しやすいように説明行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会など話す機会のある場面で説明を行ったり、要望、意見を聞きながら改善など行っている。	運営推進会議に多くの家族が出席し意見を積極的に述べている。面会時のほか、家族出席の行事も多く、家族同士交流の機会もあり、意見を述べやすい雰囲気の中で自由に発言している。毎月写真の豊富なお便りを届け利用者の日々の様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で意見交換を行ったり、申し送りノートを活用しています。	毎月の職員会議では意見を述べやすい雰囲気を心掛けている。お楽しみレクでは職員の自由な発想を重んじ、利用者も自分も楽しむ企画としている。法人の人事考課の中で年2回の面談があり意見を述べる機会にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合わせたアドバイスをしたり、遣り甲斐が持てるように資格手当などがあり職員への還元がある。リフレッシュ休暇を取れる環境にもなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加出来るような体制がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流やネットワーク作りを行っています。地域の他事業所との交流もありお互いに行き来出来る環境である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や心配な事等を把握し、入居の際に混乱されないように関係を密にし安心した生活が送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の際に家族や本人の状況、不安な事や困っていること、要望等を聞きながら希望に添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学等にいらして頂き、本人、家族の不安、要望等を聞き、出来る限り希望に添えるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かしながら、調理、掃除、買い物など一緒に行くことにより共に支え合う関係性を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事を取り入れながら一緒に参加出来るような機会を設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族との会話から馴染みの人や場所を聞き、関係が途切れないような支援に努めている。	馴染みの美容院や商店への買い物に行っている。家族や友人が訪問の折にはゆったりと話せるように、遠方の家族の来訪には宿泊にも対応している。ドライブの中で昔の家に立ち寄ったり、神社への初詣は新しい年を祝う喜びとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、相性を把握したうえで、共通して楽しめる時間を共有できるように職員が支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も遊びに来られる家族もいらっやいます。病院や他施設に移られた方のお見舞いや面会などに行ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や想いを把握するようにしている。	普段の会話の中にも意向を把握する言葉かけを心掛け、毎日の「生活のアセスメント(毎日の記録)」を作成しケアプランへの反映を念頭に置き記載している。話せない人は、家族から、本人の表情や様子から本人本位となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からこれまでの生活歴をもとに長年本人が行ってきたことが続けられるように配慮していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録を行い残存能力や変化などの共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン変更前に本人、家族の希望、要望を確認し、毎月の事業所会議で職員からの気づき、意見を取り入れながらケアプランに反映させている。	毎日の「生活アセスメントシート」による記録や面会時の家族の意向を踏まえ、毎月の職員会議では、看護師を含む全職員が全利用者の状況を評価し会議で話し合っている。ケアプランの見直しは、3か月または6か月毎に行い、変化のあった時はその時点で見直し、適切なケアが受けられるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を把握できるように排泄板、食事板などを活用しながら申し送り周知を行っている。記載により状態変化などが解りケアプランへの反映にもなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人、家族の要望に沿えるような柔軟な対応を行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア交流を行ったり、小学校への寄贈(リングプルなど)を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望、要望する病院へ定期的に職員同行で受診を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診に職員が同行し、結果を家族に知らせ共有している。歯科は毎週の往診が利用できる。看護師が毎日勤務し利用者の健康管理、相談支援を行っており、適切な医療が受けられる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の体調確認など行ってもらい変化があった時には相談、助言をもらい適切な対応が出来るようになっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は病院、家族と情報交換を行うと共に本人の不安が軽減するようにお見舞いに行くなどして早期に退院出来るような支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては医療連携体制が整わず難しい状況です。	契約時に指針に基づき説明し同意を得ている。現在は、それぞれのかかりつけ医の受診段階にあり、看取りの経験はないが、職員は看取りの勉強を行い、また、経験者もあり、将来の看取りへの対応に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から講師を招き救命救急講座などの実践講習を実施し実践力も身につけています。また緊急時のマニュアルもあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回色々な場面を想定した訓練を実施し、町内の方にも参加して頂いています。食料の備蓄も用意してあります。	年4回、消防署協力のもと利用者、町内の人々が参加し、夜間・冬季を想定した火災避難、消火放水、車いす避難訓練を実施している。毎日の防火点検チェック表による点検、冬場の非常口の確保、非常用各種備蓄品の確保など防災面に力を注いでいる。	防災面に力を入れ取り組んでいるが、災害の突発性とその影響性に鑑み、他の自然災害発生の恐れの有無、対応について更なる検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーに配慮し自尊心を傷つけない関わり、対応を行っています。	ケア理念に「人生の先輩には尊敬の心を忘れずに・・・」と謳い、権利擁護指針のもと、一人ひとりの人格を尊重した丁寧な話し方、聞き方、対応を心掛けている。玄関は日中施錠せず、個人に関する文書も適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での小さな事でも自己決定が行えるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の好きな事や、日々変化する身体状況に応じて適切に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室でカットなど行っています。女性はイベントの時などにお化粧をされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の何気ない会話から旬の食べ物を聞き季節を感じるものを食べて頂けるような工夫をしたり、一緒に準備や片付けを行ったりしています。	地域の人が野菜を毎日届けてくれるので新鮮な素材を使い、利用者の希望を入れた食事作りをしている。調理や片付けには利用者の残存能力が生かされ、職員と共に楽しく会話を交えながら摂っている。行事食やバイキングを取り入れ、家族と共に楽しい食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事がしやすいように切り方、形状などの工夫や水分が摂りにくい方には好みのものを提供し飲んでいただけるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩の口腔ケアは行えています。年に1回訪問歯科で口腔内の確認を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄板を活用し個々の排泄パターンに合わせてながら声掛け、誘導し失敗なくトイレでの排泄が出来るようにしています。	布パンツ使用、トイレでの排泄を目標に、日中と夜の下着を変えるなど、その人に合ったケアを行っている。入居時はリハビリパンツ使用から、適切な声掛けにより、日中布パンツに改善した事例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫として糸寒天、寒天ゼリー、ご飯への炊き込みなど寒天を使ったり、野菜ジュース、飲むヨーグルトなど飲み物などによりスムーズな排便に繋がるように働きかけを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて入浴剤の色や香りでも楽しんで頂けるようにしています。	週2～3回の入浴を目途とし、夜間に入りたいとの希望にも対応している。同性介助としているが、男性利用者の希望により女性職員が対応することもある。入浴拒否の人には、時間や人を変えた声かけ、体調に合わせてシャワー浴、入浴剤の使用、話を聞いたり歌を一緒に歌うなど楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方や生活リズムを整え夜間良眠出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートを活用し職員で共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々での楽しみや連帯感を持った楽しみの両面で楽しんでもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望される方は現在はいらっしゃいませんが、毎月外出行事があり町内、町外への外出の機会があります。	初詣、花見、紅葉狩など季節の外出行事のほか買い物、外食など豊富な外出機会に恵まれている。広い菜園で野菜、果物の生育を楽しみ収穫したり、広いバルコニーでの鉢植えの花など、外気浴を楽しむ機会が豊富に設定されている。26年度からの町内にあるグループホームとの交流開始は、利用者の大きな楽しみの一つになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理されている方はいらっしゃいませんが、買い物の際にレジでの支払いをされることはあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届いた時はお礼の電話をしたり、手紙を書く事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁面製作、吊るし飾りなどを一緒にを行い季節感を感じていただけるようにしています。	南に面した広々とした窓からは、明るい日差しとともに眺望も優れている。空気清浄器が設置され室内は温湿度管理が行き届いている。壁面は利用者とともに作った大きな壁面飾り、吊るし飾りや写真が貼られ、季節感を漂わせている。清掃も行き届き、居室にこもる人はほとんどなく、居心地の良い場所として過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように随所にソファなどを配置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や好みに合わせたものを持ち込まれたり、仏壇を置かれている方もいらっしゃいます。	居室は、使い慣れた家具などを持ち込み、家族の写真や思い思いの飾り付けを楽しみ、中にはアイドルの写真を壁面一杯に飾り、自分の居心地の良い空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺があり歩きやすく、床はバリアフリーになっており移動しやすくなっている。		